

## 2017 年度 看護学部 A P 事業 マイルストーン科目における結果報告

2018 年 2 月 12 日

看護学部 A P 推進チーム

1. マイルストーン科目名：健康と生活

2. 開講学期：2017 年度 前期

3. 調査対象：2017 年度看護学部「健康と生活」履修者 84 名

内訳：2017 年度入学生 82 名、2016 年度入学生 2 名

4. 調査方法：

創価大学 A P 推進本部により作成された「マイルストーン学期始めループリック」と「マイルストーン学期終わりループリック」を、それぞれ科目開始時と科目終了時に一斉配布し、事務室カウンターにて留め置き回収を行なった。授業第 1 回目に学び始めシート、第 7 回目に中間振り返りシート、第 14 回目にリフレクションシート、第 15 回目に自己成長記録シートへの入力を求め、受講生相互評価による振り返りを行なった。各シートはポータル上に設定し受講生に入力を求めた。

5. 調査内容：

1) マイルストーン学期始めループリックおよび学期終わりループリック：

ループリックは、マークシート記入方式であり、学部・学科、氏名、科目、担当教員は記述で求めた。各ループリックの質問項目は 5 項目、0～9 の選択肢から 1 つを選択する。選択肢 0 が最も低い評価であり選択肢 9 が最も高い評価である。学期始めループリックの質問項目内容は、①学びの計画性、②大学生としての自覚、③学習者としての自覚、④新しい仲間作り、⑤看護師へのキャリア成熟性、であった。学期終わりループリックの質問項目内容は、①学びの計画性、②学習者としての自覚、③人間関係力 1、④人間関係力 2、⑤看護師へのキャリア成熟性、であった。

2) 学び始めシート：

学び始めシートの質問項目内容は、①授業の到達目標、②授業を履修する理由（動機）、③自分なりの目標、④その目標に向けて取り組みたいこと（挑戦したいこと）、⑤そのために活用しようと思う人、物、場所など、であった。

3) 中間振り返りシート：

中間振り返りシートの質問項目内容は、「①学び始めシートを参照して、どんな思いで授業を受け始めたのか、思い出して書いてみましょう。」「②授業の到達目標を参照して、目標はどの程度達成できているか書き出してみましょう。」「③学習成果物（提出課題やノートなど）を参照して、自らの学びや気づいたことを書き出しましょう。」「④残りの授業を通じて、改めて取り組みたいこと、新たに達成したい目標など、リストアップしてください。」「⑤ここまでの作業を行なって、気づいたこと考えたことを書き残しておきましょう。」であった。

## 4) リフレクションシート :

リフレクションシートの質問項目内容は、「①学び始めシートを参照して、どんな思いで授業を受け始めたのか、思い出して書いてみましょう。」「②中間振り返りシートを参照して、自らの学びや気づいたことを書き出しましょう。」「③自己点検シート（ループリック）を参照して、自身の成長や変化について点検し、気づいたことや感想を書き出しましょう。」「④新たな課題（挑戦目標）とその取り組み方について、書いてみましょう。」「⑤ここまでの作業を行なって気づいたこと、考えたことを書き残しましょう。また自身の取り組みを総括して採点すると何点になるか、自己評定してみてください。」であった。

## 5) 自己成長記録シート :

自己成長記録シートの質問項目内容は、「①相互評価を通じて気づいたことを書いてみましょう。」「②これからの学生時代を通じて、改めて取り組みたい（伸ばしたい）と思ったことを書いてみましょう。」「③そのことに取り組む意義や価値、そして取り組む自分への励ましの言葉を書いてみましょう。」であった。

## 6. 分析方法

今回は、「マイルストーン学期始めループリック」と「マイルストーン学期終わりループリック」のデータを分析した。項目ごとに回答割合を算出し、学期はじめと学期終わりに共通する項目への回答割合は $\chi^2$ 検定を行なった。なお、1～9の選択肢の数字を点数として見なし、便宜的に各項目の平均値を算出し平均値の差の検定を行った。

## 7. 結果

学期始めループリックは 84 部、学期終わりループリックは 80 部を回収した。有効回答部数は学期始めループリックは 84 部、学期終わりループリックは 80 部であり、有効回答率は 100.0%だった。分析対象は計 164 部。

表1. 学期始めの②大学生としての自覚への回答割合(%) (n=84)

得点	回答人数	回答割合
0点	0	0.0%
1点	1	1.2%
2点	4	4.8%
3点	4	4.8%
4点	12	14.3%
5点	15	17.9%
6点	17	20.2%
7点	7	8.3%
8点	15	17.9%
9点	9	10.7%

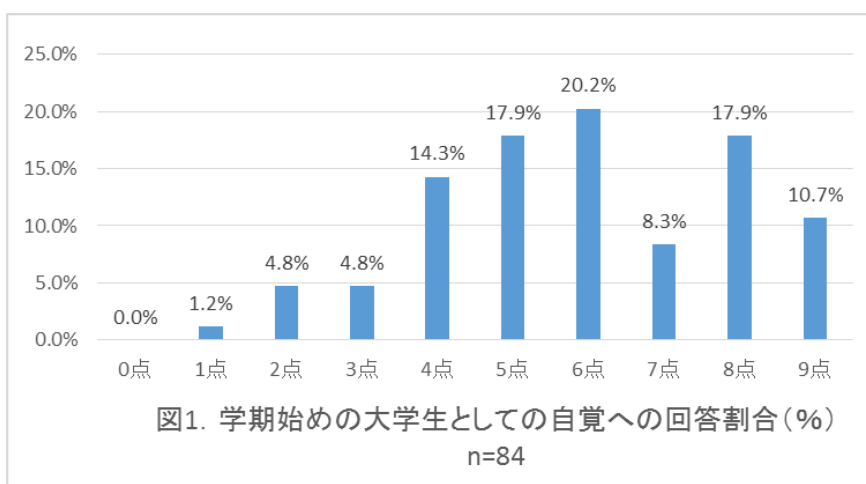


表 1 と図 1 に示すとおり、学期始めの大学生としての自覚は、6 点 20.2%であり、6 点は「呼び名

が「生徒」から「学生」に変わることが知っていましたし、その意味の違いについて、少し考えたこともあります。」であった。

表2.学期始めの②新しい仲間作りへの回答割合(%) (n=84)

得点	回答人数	回答割合
0点	1	1.2%
1点	1	1.2%
2点	0	0.0%
3点	0	0.0%
4点	4	4.8%
5点	6	7.1%
6点	9	10.7%
7点	14	16.7%
8点	27	32.1%
9点	22	26.2%

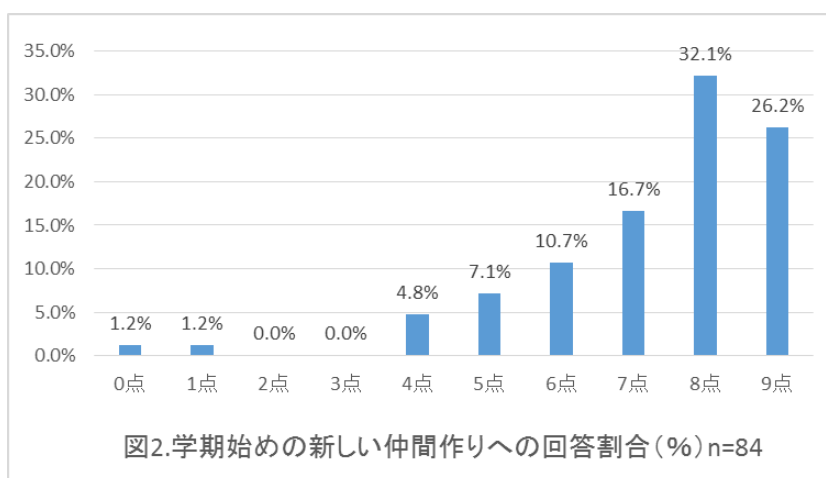


表 2 と図 2 に示すとおり、学期始めの新しい仲間作りは、8 点 32.1%であり、8 点「今までも、友人はたくさんいました。中には勉強面で励まし合える友達もいます。これからもそうした友人を作っていきます。」であった。

表3.学期終わりの人間関係力1の回答割合(%) (n=80)

得点	回答人数	回答割合
0点	1	1.3%
1点	0	0.0%
2点	0	0.0%
3点	0	0.0%
4点	1	1.3%
5点	5	6.3%
6点	28	35.0%
7点	21	26.3%
8点	16	20.0%
9点	8	10.0%

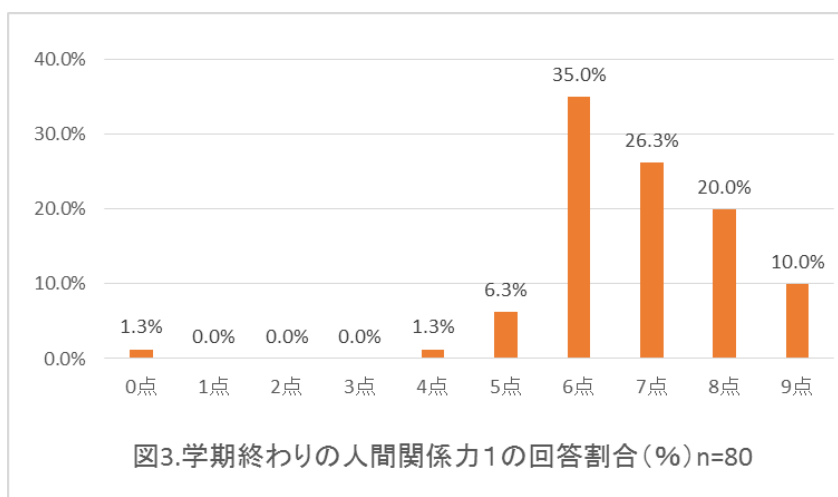


表 3 と図 3 に示すとおり、学期終わりの人間関係力 1 は 6 点 35.0%であり、6 点「仲間の良いところやグループへの貢献に気づき、誰に対しても素直に賞賛できました。また、困っている様子にも直ぐに気づき、励ましの言葉をかけることもできたと思います。」であった。

表4.学期終わりの人間関係力2の回答割合(%) (n=80)

得点	回答人数	回答割合
0点	0	0.0%
1点	0	0.0%
2点	0	0.0%
3点	1	1.3%
4点	3	3.8%
5点	10	12.5%
6点	18	22.5%
7点	22	27.5%
8点	18	22.5%
9点	8	10.0%

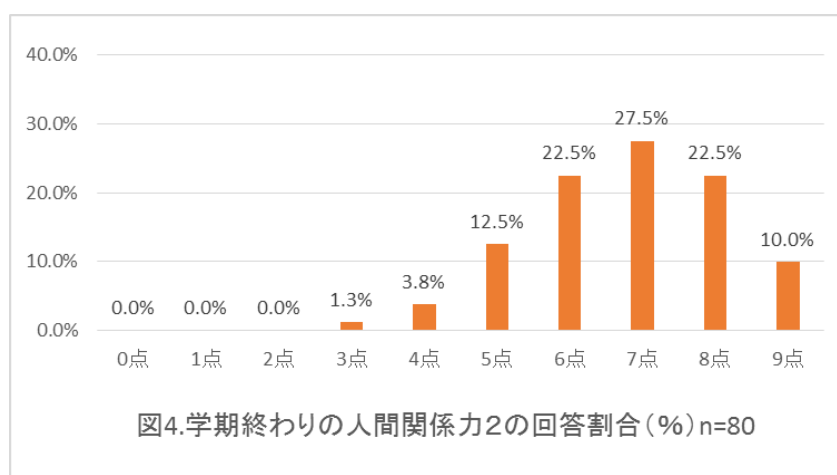


表 4 と図 4 に示すとおり、学期終わりの人間関係力 2 は 7 点 27.5%であり、7 点「私は、積極的に周囲と協調し、グループの課題に取り組みました。様々なグループ活動から有意義に学ぶことができ、新しい人たちと協働するのは楽しいと感じています。」であった。

ここからは、学期初めと学期終わりに共通する質問項目への回答割合を比較する。

表5.学びの計画性の学期始めと学期終わりの回答割合の比較(%) (n.s.)

得点	学期始め		学期終わり	
	回答人数	回答割合	回答人数	回答割合
	n=84		n=80	
0点	0	0.0%	0	0.0%
1点	0	0.0%	0	0.0%
2点	2	2.4%	1	1.3%
3点	1	1.2%	3	3.8%
4点	19	22.6%	11	13.8%
5点	26	31.0%	21	26.3%
6点	19	22.6%	22	27.5%
7点	12	14.3%	15	18.8%
8点	5	6.0%	6	7.5%
9点	0	0.0%	1	1.3%

$\chi^2$ 検定、n.s.;有意差無し

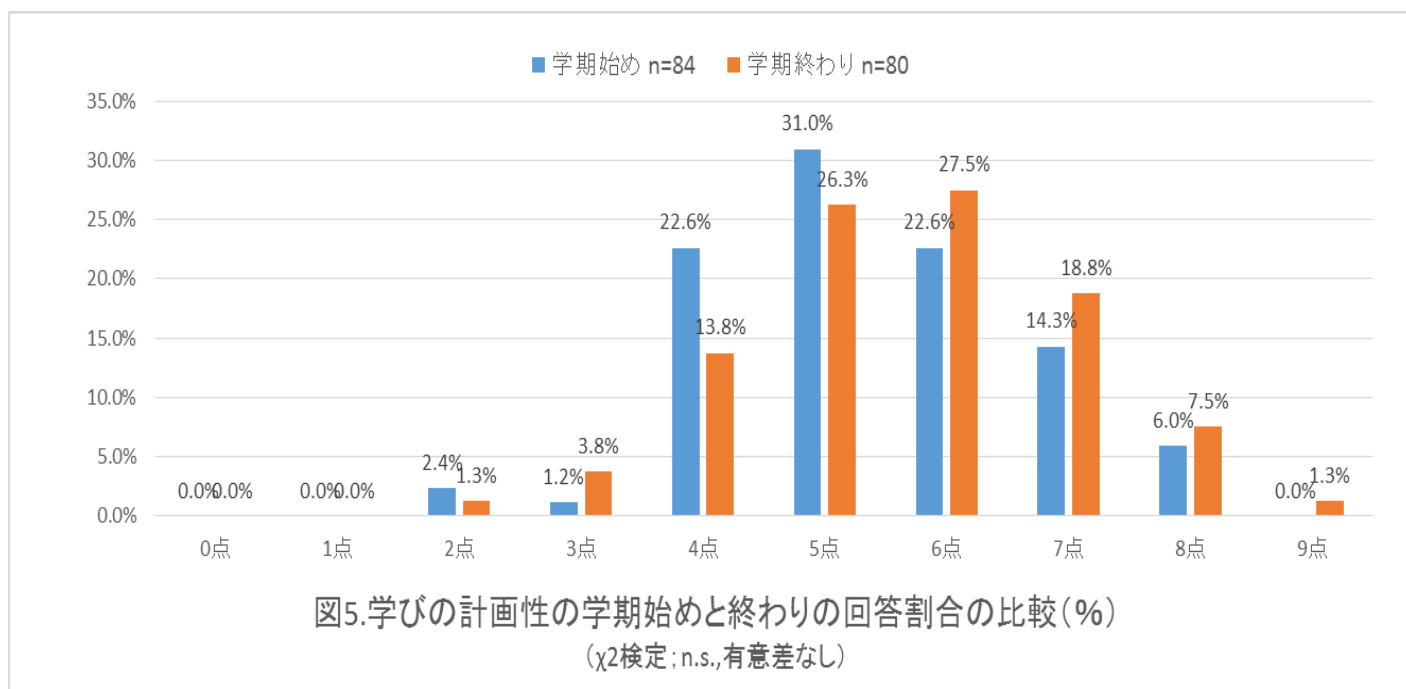


表5と図5に示すとおり、学期初めと学期終わりの学びの計画性は、全体では有意差は無かった。学期始めに最も多い回答は5点「たぶん大丈夫だと思います。」であり、学期終わりに多かった回答は6点「たぶん大丈夫だと思います。」であった。

表6. 学習者としての自覚の学期始めと学期終わりの回答割合の比較(%) (n.s.)

得点	学期始め		学期終わり	
	回答人数	回答割合	回答人数	回答割合
	n=84		n=80	
0点	1	1.2%	0	0.0%
1点	0	0.0%	0	0.0%
2点	0	0.0%	0	0.0%
3点	1	1.2%	3	3.8%
4点	10	11.9%	7	8.8%
5点	12	14.3%	15	18.8%
6点	42	50.0%	22	27.5%
7点	7	8.3%	15	18.8%
8点	7	8.3%	11	13.8%
9点	4	4.8%	7	8.8%

$\chi^2$ 検定、n.s.; 有意差無し

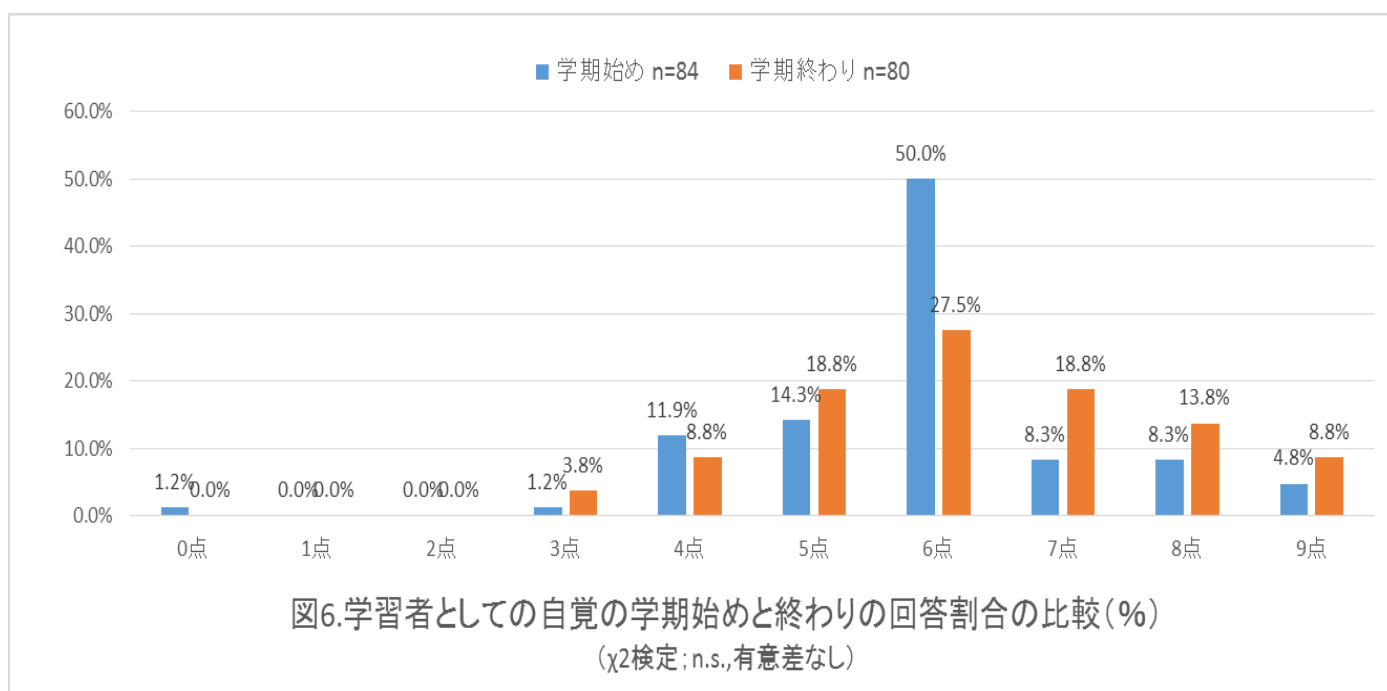


表 6 と図 6 に示すとおり、学期初めと学期終わりの学習者としての自覚は、全体で有意差は無かった。学期始めに最も多い回答は 6 点 50.0%であり、6 点「課題は丁寧に取り組んで来たと思いますが、少し不安です。よりいっそう気をつけて取り組みたいと思います。」だった。しかし、学期終わりには、7 点 18.8%、8 点 13.8%、9 点 8.8%と高い得点への回答も増え、7～9 点「今までも、課題の意図や指示を確かめながら学んできました。大学生になっても更に丁寧に課題に取り組みます。」になった。

表7.看護師へのキャリア成熟性の学期始めと学期終わりの回答割合の比較(%) (\*\*)

得点	学期始め		学期終わり	
	回答人数	回答割合	回答人数	回答割合
	n=84		n=79	
0点	1	1.2%	1	1.3%
1点	0	0.0%	0	0.0%
2点	0	0.0%	0	0.0%
3点	0	0.0%	0	0.0%
4点	0	0.0%	2	2.5%
5点	0	0.0%	10	12.7%
6点	7	8.3%	22	27.8%
7点	5	6.0%	21	26.6%
8点	32	38.1%	15	19.0%
9点	39	46.4%	8	10.1%

$\chi^2$ 検定、; \*\*: P<0.01

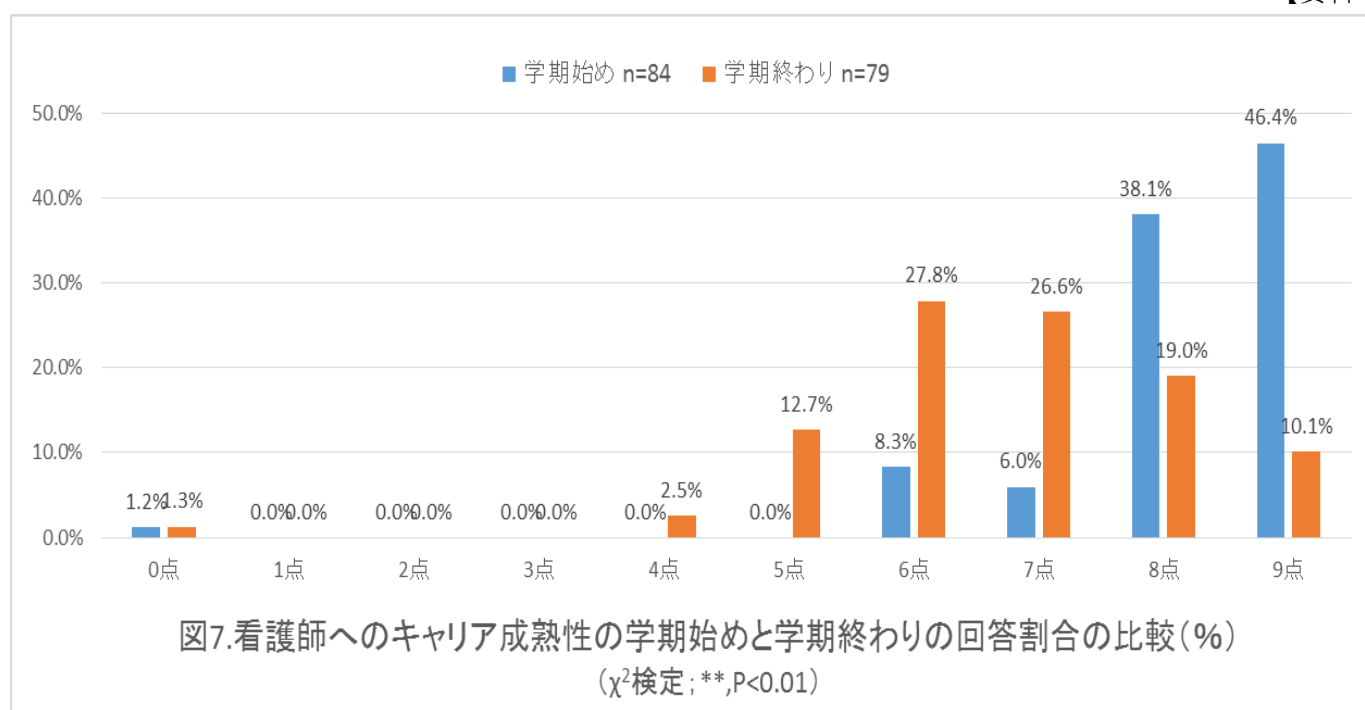


表 7 と図 7 に示すとおり、学期初めと学期終わりの看護師のキャリア成熟性は、全体として有意差 ( $P < 0.01$ ) があった。学期始めに最も多い回答は 9 点 46.4% であり、9 点「看護師という職業にとっても関心があります。」だったが、学期終わりには最も多い得点は 6 点 27.8% であり、7~9 点「看護師になる心構えがよくできています。」や、5~6 点「看護師になる心構えがまあまあできています。」であった。

		学期始め	学期終わり	有意差
		n=84	n=80	
学びの 計画性	平均値	5.4	5.7	n.s.
	標準偏差	1.32	1.37	
学習者としての 自覚	平均値	5.9	6.3	n.s.
	標準偏差	1.38	1.54	
看護師への キャリア成熟性	平均値	8.1	6.7	**
	標準偏差	1.29	1.47	
ウィルコクソンの符号付き順位検定,** $P < 0.01$ .,n.s.,有意差無し				

表 8 に、学期始めと学期終わりの共通項目への回答を点数化したものの平均値を示した。学びの計画性と学習者としての自覚については、学期始めと学期終わりの平均値に有意差は無かった。ただし、看護師へのキャリア成熟性については、学期始めと学期終わりの平均値に有意差 ( $P < 0.01$ ) があり、学期始めの平均値が高かった。

## 8.まとめ

マイルストーン科目における調査を通して、大学生としての自覚や新しい仲間作りに対する準備性は高いと考えられた。学期始めと終わりの比較においては、学びの計画性と学習者としての自覚には有意な差が無かったため、計画的な学びに対する介入の必要性や、主体的な学習者として自覚できるような支援が考えられた。

本科目においてはグループ学習や調べ学習、発表、学習目標の設定や、中間振り返り、仲間とのリフレクションによる個人の学びの共有も行なった。これらのことが、学期終わりの人間関係力1および2の得点の高さに影響したと考えられる。

最後に、本学部独自項目として掲げた看護師へのキャリア成熟性については、学期始めよりも学期終わりに得点が低くなった。これは、学期始めは「看護師という職業への関心」を問い、学期終わりは「看護師になる心構え」を問うたためであったと考えられる。学びの半期において、マイルストーン科目以外の医科学、看護専門科目にも触れ、看護師になる上での学びの深さや難しさを改めて知ったことが、心構えへの回答に影響したのではないかと考えられた。